


論文審査の結果の要旨

報告番号	博(生)甲第308号	氏名	黄 婕
学位審査委員	主査 連 清吉 副査 早瀬隆司 副査 谷村賢治		
論文審査の結果の要旨			
<p>黄婕氏は、2010年4月に長崎大学大学院生産科学研究科博士後期課程に入学し、現在に至っている。同氏は、生産科学研究科に進学以降、環境科学を専攻して所定の単位を修得するとともに、京都の都市再生の理念を本にして、中国の古都洛陽の経済発展と人文社会環境をいかに調和的発展ができるかに関する研究に従事し、その成果を2013年12月に主論文「古都洛陽の都市再生の基盤—文化表象から見る洛陽の文化」に関する研究として完成させ、参考論文として、学位論文の印刷公表論文3編（うち審査付き論文3編）を付して、博士（学術）の学位の申請をした。長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、2013年12月18日の定例教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の審査委員を選定した。委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を実施するとともに、最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2014年2月19日の生産科学研究科教授会に報告した。</p> <p>本研究は日本の古都である京都のケーススタディを啓発とし、古都洛陽の文化力による都市再生の基盤になる洛陽の文化について、歴史記載と文学記述の二つを相互に対照する手掛かりを用い、その時代に起こった代表的な文化表象及びその関連性を明らかにする。</p> <p>京都の啓発を受け、古都洛陽の文化力による都市再生の基盤になる洛陽の文化について展開し、歴史を軸に、文化表象をキーワードとして、文学作品や文化現象に反映している洛陽の時代像を考察・分析し、その本質的な特徴を捉えるようにアプローチする。</p> <p>周王朝は洛陽地域を天下の中心として都を建てた。これは洛陽が天下の中心とされた原点となり、高い文明や王朝の正統性を象徴するイメージを形成した。後漢は礼楽制度を回復するために、洛陽を都にし、礼制を象徴する建物の建築や太学の設立、白虎通議を以て、儒教国家の成立を示し、洛陽の儀礼制度、道德教化を謳歌し、礼儀道德を象徴するイメージを築いてきた。魏晋南北朝の大分裂の時代に、洛陽の貴族や文人たちが懸命に伝統文化を維持することによって、洛陽から思想、民族、宗教の三つの面から融合する趨勢が見られ、多くの新しい文化を生み出して、「自覚の時代」と呼ばれる文化的飛躍を成し遂げた。洛陽は唐代の詩作中に頻度高</p>			

く現れ、唐代の代表的な作品と詩人を取り上げ、士人達の洛陽に対する感情の軌跡と根源を探究することによって、洛陽が持っている文化的故郷のようなアイデンティティを明らかにした。宋代儒学の復興の幕が最初に洛陽で開いて、二程子の洛学の形成、伝達、確立及び伝承することは、洛陽の風土と相乗効果を生み、正統的な地位を確立し、漸く朱子によって大成され、新しい時代を切り開いた。

以上のように、洛陽の文化表象の歴史軌跡を追跡することによって、先秦時代は天下の中心、漢代は礼儀道徳の象徴、魏晋南北朝は文化の融合、隋唐時代は文化的なアイデンティティの成立、宋代は儒学復興であることを究明した。さらに、3000年を超える長い期間、歴史の枢要である洛陽は、時間と空間を交えて生成した文化表象として、中華文化における漢文化の核心的な存在であり、古代から近世までの中華文明の軌跡を通観できることを論考した。

本論文は、先秦時代から宋までの洛陽の文化を巨視的に捉え、継続性を持つ文化表象を通して総合的に考察、分析し、洛陽の位置づけを個別の王朝から抜け出して、中華文明をより高い視点から俯瞰することすることは、従来や同時代の研究に見られない独創的な見解である。さらに、洛陽の歴史文化の在り方を究明し、洛陽の「文化力」による都市再生の構想を提起されることが持続可能な都市計画に関する取り組みに多大の寄与をするものと評価できる。

学位審査委員会は、中国の人文社会環境学の分野において極めて有益な成果を得るとともに、歴史文献解釈学の進歩発展に貢献するところが大きく、博士（学術）の学位に値するものとして合格と判定した。